

女性協議会が活動報告

西原社長「来期から全社でRPA導入」

C S E

建設コンサルタント業界でも屈指の女性技術者

率を誇る中央設計技術研究所(略称「CSE、金沢市)の社内組織である女性協議会は、9月26日に開催された役員会において、第63期活動報告並びに提言を行った。



役員会で提言する女性協議会のメンバー(左)

女性協議会は2016年10月に発足。「成長」「活躍」「情報共有」などの6項目を目的として、女性(特に一般職)が働きやすく活躍できる職場環境づくり

に向けて積極的に活動を行っている。

同日は、女性協議会の下千鶴代表、木村朋子副代表、来期代表を務める池田奈央さんが出席。今期は①働きやすい職場環境づくりに向けてテレワークと介護制度について

②ブランド醸成、人材獲得、会社の魅力向上について③女性活躍とは何か④RPAの4項目について議論・検討し、テレワークや現行の介護制度における改善点のほか、RPAの習得状況などを報告した。

それに対して、西原秀幸社長は、RPAの導入について「来期の64期から技術、営業、管理を含めて全社一丸で進めていく。理想は全員一人ひとりのコピーロボットを作

りたい。それにより、業務効率を上げ、ノー残業の実現、労働時間や日数を減らし、テレワークと出社を4対1にしなから、将来的には週休3日制を目指して取り組んでいきたい」と応えた。

また、ブランド醸成に関して「現行のテレビCMは社外にインパクトのある内容と思案したが、一部の社員には評判が悪かった」と苦笑いした上で、「ぜひ来期は女性協議会の中で新しいCMを検討してほしい」と要望するとともに、人材獲得に向けて「特に新卒者から選んでもらえるように、親の目線から見ると子供をどういふ会社に入りたいと思えるような当社の魅力向上について提言してほしい」と述べ、

今後の女性協議会活動に期待を寄せた。それに関連して、管理本部の仁海信一郎長は、各種認定制度のうち、64

期は女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」の取得に着手し、「会社のイメージアップにつなげたい」と報告した。